

国語

➡ 中・高学年 | 「ことばの学習」

夏休み、子どものことばの力を育む「5・7・5」

長い夏休みだからこそ育める「ことばの力」

『ことばの力』は、授業の話し合いなどで磨かれていくもの。夏休みの間は、読書や日記、漢字ドリルなどの宿題を出すくらいで仕方ない」そんなふうに諦めていませんか。

同じ宿題でも、その出し方をほんの少し工夫するだけで、その効果はずいぶん違ってきます。そこで今回は、おすすめの宿題の出し方を紹介します。

何でも丸ごと「5・7・5」

どの学校でも多く出されている「夏休みの生活の記録」(絵日記、1行日記など)や、「夏休み新聞」の見出しなどを、「5・7・5」の形式で書くよう、条件をつけてみましょう。

～ 縁側で いとこ3人 種飛ばし ～

例えば、「親戚が遊びに来て、久しぶりに再会した従兄弟たちと楽しく過ごしました」ということを日記に書くのであれば、その中で一番心に残っていることを「5・7・5」の見出しで表現するように、と指示すると、したことをただ書き並べるだけの日記から、このように、ぐっと味のある表現が生まれるようになります。

～ 日本一 高い所に 立ちました ～

思い切って、「夏休みにはやりたいこともたくさんあるだろうから、見出しだけ書いてあればいいよ」と、宿題を軽減するのほひとつの作戦です。

1行と言っても、「5・7・5」にするためには、言葉を選ばなければなりませんし、見出しだけでいいと言われても、うまく表現できた時は、思わず解説をつけたくなるのが人情というものです。

この見出しの後には、次のような日記が書かれて

いました。

「僕は、生まれて初めて富士山に登りました。友だちや、おじいちゃんたちも、みんな僕の立っている所より下にいるんだなあと思ったら、なんだかとっても不思議な気持ちになりました(後略)」

～ かき氷 アイスクリーム 胃腸薬 ～

この作品などは、三つの単語を並べただけですが、何の解説がついていなくても、読み手が思わずニヤリと笑ってしまうような、ウイットが感じられます。

ここまで言葉を楽しめるようになれば、しめたものの。2学期の学習が楽しみです。

音読みと訓読みを入れて「5・7・5」

自分が読んだ物語や、観た映画、DVDなどについて、日記代わりに一言書いておくことも効果的です。なぜ、そのような言葉で表現したのかを説明するだけで、先の日記のように、あっという間に、立派な感想文に仕上がるはずです。

- ・ 夏休みの思い出の写真に『5・7・5』
 - ・ 新聞記事の事件(写真)に一言『5・7・5』
 - ・ 暑中見舞いのはがきに添える『5・7・5』
- といった課題を出しておけば、2学期のスピーチなどもスムーズに行うことができます。

～ 潮風が 匂いを運ぶ バーベキュー

これが本当の アメリカ風 ～

この短歌には、「風」という漢字の音読みと訓読みが入っていますが、このように「新出漢字」を使ってみよう、という宿題などを出しておく、2学期の漢字の学習も楽しく行えるはずです。

時間が許すならば、宿題を出す前に、「ことばの学習」として扱っておき、帰りの会の日直の一言にするなど、日常化しておく効果は倍増します。